

平成29年度第2回函館市地域包括支援センター運営協議会 会議録

- **開催日時** 平成29年11月1日(水) 18:30～20:00
- **開催場所** 函館市役所 8階 大会議室
- **議 事**
 - 1. **地域密着型サービス事業所の運営に関する事項**
 - (1) 地域密着型サービス事業者の指定等について 資 料1
 - 2. **地域包括支援センターの運営に関する事項**
 - (1) 第1号介護予防支援事業および指定介護予防支援の業務の一部を委託できる
指定居宅介護支援事業所の選定について 資 料2
 - (2) 平成28年度函館市地域包括支援センター収支決算について 資 料3
 - (3) 平成28年度函館市地域包括支援センター事業評価について 資 料4
参考資料1
 - (4) 平成29年度函館市地域包括支援センター活動実績報告について 資 料5
 - 3. **その他**
- **出席委員** (8名)
岩井祐司会長, 齋藤征人副会長, 中村清秋委員, 佐々木大介委員, 高橋陽子委員,
三國富美子委員, 船橋優子委員, 山田富雄委員
- **欠席委員** (2名)
後藤琢委員, 柏原美之委員
- **地域包括支援センター**
あさひ 有川管理責任者, こん中央 福島管理責任者, ときとう 長谷山管理責任者,
ゆのかわ 京谷保健師, たかおか 松野管理責任者, 西堀 川村管理責任者,
亀田 常野管理責任者, 神山 小杉管理責任者, よろこび 黒田管理責任者,
社協 張磨管理責任者
(報告者: こん中央 手塚社会福祉士, 社協 佐藤主任介護支援専門員)
- **傍 聴** 1名
- **報道機関** 1名
- **事務局**
 - (保健福祉部) 藤田部長, 佐藤次長
 - (高齢福祉課) 佐藤課長, 岩島主査, 中村主査, 辻主査, 二木主任, 小泉主任主事,
古口主任技師
 - (指導監査課) 小松課長, 山名田主査
 - (亀田福祉課) 伊東主査

○ 会議要旨

(開会の後、議事に入る。)

議事

1. 地域密着型サービス事業所の運営に関する事項

(1) 地域密着型サービス事業者の指定等について

岩井会長

地域密着型サービス事業者の指定等について事務局から説明願いたい。

小松課長

(資料1「地域密着型サービス事業者の指定等について」に基づき説明)

岩井会長

事務局の説明について、意見・質問等はないか。特にないようなので、協議会として意見がないということで、次にまいりたい。

2. 地域包括支援センターの運営に関する事項

(1) 第1号介護予防支援事業および指定介護予防支援の業務の一部を委託できる指定居宅介護支援事業所の選定について

岩井会長

続いて、第1号介護予防支援事業および指定介護予防支援の業務の一部を委託できる指定居宅介護支援事業所の選定について事務局から説明願いたい。

佐藤課長

(資料2「第1号介護予防支援事業および指定介護予防支援の業務の一部を委託できる指定居宅介護支援事業所の選定について」に基づき説明)

岩井会長

事務局の説明について、意見・質問等はないか。

中村委員

行政として、ケアプラン件数の直営と委託の構成比について、望ましい割合など何か見解をお持ちか。

佐藤課長

数字として定めているものは特にはないが、地域包括支援センターの本来業務を滞りなく実施していただくために、必要時、委託での対応を行っていただきたいと考えている。業務量と職員数の関係等で委託数が増えるというのは、ある意味望ましいと思う。

余談になるが、先日北海道市長会介護保険係長研修会があり参加した。函館市は居宅介護支援事業所が多くあるため、一部委託を受ける事業所がなくて困るということがない状況だが、規模の小さい市町村では、居宅介護支援事業所が少ないため自分達で抱え込まざるをえなく、地域包括支援センターの業務も増えてきているなかでやり切れないという話を聞き、本市は恵まれていると感じた。

岩井会長

他に意見・質問等はないか。特にないようなので、協議会として意見がないということで、次にまいりたい。

(2) 平成28年度函館市地域包括支援センター収支決算について

岩井会長

平成28年度函館市地域包括支援センター収支決算について、事務局から説明願いたい。

中村主査

(資料3「平成28年度函館市地域包括支援センター収支決算について」に基づき説明)

岩井会長

事務局の説明について、意見・質問等はないか。

中村委員

収支決算についての協議は不要ではないか。収支のバランスがとれていない予算書が提出されること、予算の段階で収支差額がマイナスになっていること自体がおかしな話であるし、法人によって計上する項目が異なるため、委員の立場からすると意味のない資料に感じる。

協議するということであれば、支出の合計に基づいて委託料が定められていると思うので、どこのセンターも同じ予算で組んでいただいた方が分かりやすいのではないかと。

佐藤課長

予算の段階で収支差額がマイナスになるのはどうかというご指摘だが、私どもとしても大変心苦しく思っている。委託料については、来年度見直しできるように取り組んでいきたい。

予算・決算は、地域包括支援センターの適正な運営がなされているのか、適正な委託料であるのかということについて、委員の皆様から市への提言、要望など、ご意見をいただくためにお示ししている。国も収支に関しては、どのような形であれ運営協議会に示して協議をなさいたいと言っている。収支科目が細かく見づらいなどの問題もあると思うが、今後も継続していきたい。

予算がセンターによって異なっているということについては、職員数が違うことや加算業務の委託料が異なることから差異がある。申し訳ないがご了承をいただきたい。

中村委員

賃借料や水道光熱費等については、事業所の規模等で差が生じるものであり、行政としても関与しないところであると思うので、地域包括支援センターの運営自体に係る経費のみを抽出したものにしてよいのではないかと。

佐藤課長

運営に必要な経費は市でも把握する必要がある。施設に係る経費についても、委託料の積算に含まれてはいないが、実態は把握する必要があると思っている。ここまで細かい項目でお示しする必要があるのかという問題はありますが、継続させていただきたい。

岩井会長

他に意見・質問等はないか。

包括ゆのかわ 京谷氏

資料について補足させていただきたい。包括ゆのかわの収支差額がプラスになっているという報告があったが、包括厚生院が2つに分かれたことで、平成28年度に限って480万円の繰越金が生じ収支差額がプラスになったものである。繰越金がなければ、約400万円のマイナスになる。今年度についても、約700万円のマイナスになると推測している。

齋藤副会長

運営状況をつまびらかにすることについて、地域包括支援センターの皆さんはどう考えるのかを現場の声として聞かせていただきたい。

また、赤字額について年々広がりつつあるというような印象をもつ。先ほど事務局の説明もあったが、現場の考えを聞かせていただきたい。

包括たかおか 松野氏

赤字額の増大について、勤続年数が長い職員が増えると人件費は増大していく。事業が増えると、細かいところにかかる経費も増える。中村委員からご指摘のあったお金の使い方については、公用車のことなど、センターによるばらつきがあるのは事実なので、何らかの形で詰めていかなければならないと思う。包括たかおかでは、基本的には2人で1台公用車が当たるようにしている。どのような家に訪問するか分からないこともあるので、自家用車では極力行かせたくない。女性の職員を全く分からないところへ送り込むときには、管理職として緊張する。極力車種やナンバーなどが分からないようにする。余談だが、介護支援専門員証にも自宅の住所が記載されているので、見えないように持ち歩くなど、気を付けなければならない部分がある。

運営状況を包み隠さず見ていただくということは大事なことだと思う。他の法人の経営状況を確認でき参考にもなるので、良いと思う。

包括ゆのかわ 京谷氏

地域包括支援センターの開設時から勤務しているが、その頃に比べ、業務量、求められる役割が変わってきている。新人職員が入職時に覚えなければならないことも増加し、職員を育てる時間がかかるようになってきている。また、求められる役割についても、新人や経験年数が少ない職員が担うことが難しいものもあり、ある程度の経験年数が必要になっていると強く感じる。そのため、包括ゆのかわでも人件費が高くなっていると思うが、当面の業務や役割を果たすためには必要な経費と感じる。

また、地域とのつながりがあるのはじめて成り立つセンターかと思うが、職員が頻繁に入れ替わると地域とのつながりが途切れたり、新たに関係を作る必要が生じるため、経験年数が長い職員が働き続けられる環境や体制がこの先も維持されることを期待する。

岩井会長

先日、函館市高齢者計画策定推進委員会が開催されたが、包括ゆのかわの佐々木委員も同様の発言をしていた。今後何年かは、地域包括支援センターの役割がますます大きくなるため、職員の経験や新人教育などが重要になってくるのではないかと思う。

他に意見・質問等はないか。特にないようなので、ただ今出された意見を参考にさせていただきたい。

(3) 平成28年度函館市地域包括支援センター事業評価について

岩井会長

平成28年度函館市地域包括支援センター事業評価について、事務局から説明願いたい。

佐藤課長

(資料4「平成28年度函館市地域包括支援センター事業評価について」に基づき説明)

岩井会長

事務局の説明について、意見・質問等はないか。特にないようなので、協議会として事務局案のとおり了解することとする。

(4) 平成29年度函館市地域包括支援センター活動実践報告について

岩井会長

平成29年度函館市地域包括支援センター活動実践報告について、地域包括支援センター社協から報告願いたい。

包括社協 佐藤氏

(資料5-1「地域から孤立して生活する独居男性の支援について」に基づき報告)

岩井会長

相談を受けてから様々な人が関わり、変化がみられたという報告だったが、相談から変化がみられるまで、どのくらいの期間がかかったのか。

包括社協 佐藤氏

最初に相談を受けたのが4月で、それから徐々に介入し、9月頃までの報告になっている。まだネットワークの構築も途中で、近隣や地域の商店、警察などとさらにつながりを密にしていきたい。

岩井会長

東部圏域は地域住民の関わりが密だと言われている地域だが、活動をするなかでどのように感じているか。その他の圏域とは違う特色もあるか。

包括社協 佐藤氏

旧4町村は、ほとんどの世帯が、親の世代から代々その土地で生活を営んでいる状況がある。外から来た人は珍しいのですぐ分かるし、隣近所については、お嫁さんはどこから来たとか、子供はどここの学校に行っているということも分かっている。

また、小さなコミュニティーなので、何か活動すると形になりやすい地域ではある。町会などの加入率をみてもほぼ100%に近いし、回覧板をまわす習慣もある。

ただ、近いからこそ何か事が起きなければ介入に踏み込まない、見て見ないふりという部分もあるので、今後はみんなで支えていくという風紀を作り上げていきたい。

岩井会長

他に意見・質問等はないか。特にないようなので、次は地域包括支援センターこん中央から報告願いたい。

包括こん中央 手塚氏

(資料5-2「権利擁護業務－高齢者虐待防止の取り組み－」に基づき報告)

岩井会長

ただいまの報告について、意見・質問等はないか。

包括こん中央 福島氏

補足したい。実際に研修会を実施した感想として、事業所の方は良く観察しているし、気づきもあるということに驚いた。また、報告したいけれど、自分達の業務のなかでそのタイミングがつかみづらいという状況にあること、上司やケアマネジャーがいなければ、市役所、地域包括支援センターに直接報告する方法も理解している方も多くいることが分かった。今回の参加者は経験豊富な方が多かったため、その他の職員が同じ観点で仕事をしているかは分からない。アンケートでは、「このような研修会で自分が考えていることを話したり、確認ができてよかった。」「またこのような研修に参加したい。」という意見も多かった。

介護事業者を対象とした虐待防止研修会を他の圏域でも行うことで、大きな効果がでるのではないかと感じた。

岩井会長

他に意見・質問等はないか。

齋藤副会長

一口に高齢者虐待と言っても、最近では発達障害のある配偶者への対応など、虐待事案が多様化していると聞く。虐待するなということも大事だが、そこまで追いつめられる家族をどのように支えるかというような課題をお持ちのセンターがあれば聞かせていただきたい。

包括神山 小杉氏

虐待者の長男も高齢者で、相談を受けた当初は、長男が弱い母親を虐待したという構図が浮かんだが、実際に実態把握を行ったところ、長男自身が介護に大変さを感じており、やむにやまねず虐待をしてしまったという事例があった。このような事例が最近増えている。虐待の通報に関する普及啓発も重要と思われるが、介護する家族への支援のあり方の視点も持ち支援を行う必要があると感じた。

岩井会長

他に意見・質問等はないか。特にないようなので、次にまいりたい。

3. その他

岩井会長

その他、委員、事務局から何かあるか。

委員・事務局

特にない。

(閉会)